

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策

#### ②大学院生や教員相互のピアレビューでの授業評価による教育指導の改善

##### ●総合研究大学院大学先導科学研究科

##### 「全教員参加型博士課程教育の構築」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

学生による授業評価アンケートを実施した。また、専攻内の教員はすべての授業に参加できるようにし、互いの授業を評価し合うことを奨励した。

学生アンケートは授業方法の改善に大いに役立てられたが、教員相互の評価の方は、教員が授業に参加できる時間は限られたことがあり、思うように進まなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

授業を教員間で相互評価をするためには、授業に参加するためかなりの時間がかかる。端的に言って、教員が多忙すぎて、これに使える時間が無かった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

授業評価をその道のプロの外部評価に委ねる大学もあると聴くが、これは専攻の教育方針に深く関わることゆえ自らの手で実行すべきことと考え、あえてスポット的な外部評価は入れなかった。しかし教員が多忙であることは今後も変わる事はないので、効果的な学生アンケートと教員会議の議論を通じて改善する試みに切り替える必要がある。